機巣

同窓会報メールマガジン

Vol. 11 秋号

岐阜工業高等専門学校　機械工学科　機巣会

目　次

P-2	目次　＆　会長挨拶		中野　廣幸（　4期生）
P-3	高専祭専門展と研修旅行	機械工学科	石丸　和博（18期生）
P-4	クラブ紹介　バスケットボール部	機械工学科	山本　高久（28期生）
P-5	企業家卒業生インタビュー		中尾　賢治（15期生）
P-6	塩谷和正／菊池潤也（14期生、写真部）		
P-7	出張先からの便り		伊藤　友裕（33期生）
P-8	十五夜会（7M）について		西村　省三（　7期生）
P-9	トーストマスターズクラブの紹介		中野　廣幸（　4期生）
P-10	編集後記		

会長挨拶

中野　廣幸

暑さの記録を塗り替えた2018年も終盤となり、平成最後の年である2019年もすぐそばまで来ています。機巣会会員のみなさまにおかれましては、日々ご活躍のこととお察し申し上げます。

さて、2018年までの同窓会活動を振り返りますと、若鮎会50周年記念行事を通じて、同窓会のネットワークの再構築が進み、組織的な活動が展開できる基礎固めができました。それに続いて、50周年行事の継続事業としての若鮎会公開講座の定期開催、岐阜高専地域連絡会「中核人材育成塾」および、本巣市の数学甲子園活動への協力など、同窓会組織としての社会的責任を果たす活動を継続、定着できたと考えます。若鮎会の活動として、これら活動を停滞させることなく、益々活発にするとともに、新しい企画を取り入れて発展させていかなければなりません。機巣会はこれら活動に対して全面的な協力をしていきたいと考えます。

岐阜高専創立50年を経て、我々機巣会も2000人規模の会員を持つ大きな組織となり、組織の社会的な位置づけを明確にしなければならない時期になって参りました。つまり、機巣会としての活動において、民主的な運営および資金の運用をすることが必要になり、そのためには機巣会会員全員の総意が反映される仕組みを構築することが急務となりました。そこで私は機巣会会長として、来年度に機巣会総会を開催することを提言いたします。機巣会総会を開催することにより、機巣会活動の有効性をより確実なものとし、それに関連する会費運用の透明性を会員すべてが確認できるようにしたいと考えます。

50周年行事およびその継続事業は、岐阜高専の創立期の卒業生が中心になって推し進めて参りました。これらの活動の中で、卒業生一人ひとりの力を一つにまとめ上げ、糸に例えれば紡ぐということができたように思います。つぎに我々が行うのは、この紡がれた糸を、縦糸および横糸として織りあげて、染めつけて、仕立てることによって大きな有機的な力にしていくことです。それぞれの段階においてのフェーズチェンジが必要となります。機巣会同窓会活動は世代をつなげる活動です。次世代につなぐことに大きな意味があります。この世代を超えるということにおいても、先に述べたフェーズチェンジのかじ取りのためにも、卒業生全員の総意が反映できる機巣会総会の開催が是非とも必要になると考えます。機巣会組織の継続的発展のための機巣会総会の開催に対して、機巣会会員の皆様のご理解、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

高専祭専門展と研修旅行

機械工学科４年担任　石丸和博

10 月27日（土）と28日（日）に第 54回高専祭が催され、そのメインイベントとして、例年通り５学科による専門展が行われました。この専門展は、例年各学科の４年生が中心となり、学科の特徴を生かした展示等が行われます。今年は、全学科統一テーマとして「未来の生活」が掲げられました。機械工学科として何を取り組むべきかを考えた結果、「宇宙エレベーター」としました。とは言っても、詳しいことは全く分からない状態でした。しかし、いろんな先生を訪ね歩いたり、資料を読みあさったりしながら、学生たち自身で議論を重ね、一般の人たちに説明できるレベルまでには何とか達することができました。専門展では、校長賞（校長、本校教員および OB 等の方が審査員）と一般観客賞（一般来場者審査員）が設けられており、学生のモチベーションを上げるとともに、学科間で競争が繰り広げられるようになっています。機械工学科は校長賞総合４位（プレゼンテーション賞３位、技術賞５位）でしたが、一般観客賞では見事１位を獲得しました。クラスで一つのことをやり遂げた経験（特に、専門を生かした経験）は、今後のエンジニアとしての人生に大きく生かされるものと思っています。

１１月６日（火）から９日（金）までの３泊４日、４年生は高専祭の余韻も冷めやらぬまま研修旅行に出かけました。今年は九州北部を中心とした研修旅行となりました。１日目は、学校に集合後、大阪に向かい繁華街人道（新世界）を散策後、泉大津港より、フェリーにて新門司港に向かいました。２日目は、関門トンネル人道、ハウステンボスでの夜間散策、３日目は、２日目に続いてのハウステンボスでの自由散策、長崎原爆資料館・平和公園の見学、そして、長崎市内での自由散策。そして、４日目は、太宰府天満宮にて、今後の学業上達・受験合格・就職成就を祈願し、博多駅で解散しました。その後はまっすぐ帰宅する学生もいれば、予め自由旅行を計画し出かける学生も多くいました。例年、研修旅行では工場見学を含むよう旅程が組まれますが、今年は、大阪に向かう途中で㈱村田製作所（東近江市）、新門司港に着いてから安川電機㈱本社（北九州市）、九州シンクロトロン光研究センターを見学させて頂きました。ともに、機械工学科の学生にとって興味深い箇所が多々あり、学生からの質問も多く出て充実した工場見学となりました。今後の進路を決める上での参考になったかと思います。少し疲れたようでしたが、高専生活の思い出となる楽しい研修旅行となったと思います。

高専祭専門展

研修旅行

クラブ紹介

バスケットボール部

機械工学科　山本　高久

今回，クラブ紹介をさせていただく山本と申します。バスケ部の顧問について今年で８年になります。現在は人文・体育の久世先生，環境都市の角野先生の３名で顧問の任についております。

練習は毎週月・水・木・金・土の週５で，川本先生のご意向で建設されたとの噂もある第二体育館で行なっております（第二体育館がある高専もなかなか無いことから，噂が本当であれば川本先生の政治力がいかに絶大だったか・・・）。第一体育館は大きな改修が入り新しくなりましたが，第二体育館自体は若干放置され気味で，ほぼ昔のままです・・・。が，透明のバックボードで電動昇降機付きのゴールに変わりました。ゴールの上げ下げをするとなると昔は下級生が必死にチェーンを回していましたが，今はボタン一つで上げ下げができます。便利な世の中になりました。また，東海地区高専大会間近に例年行なっていた”体育館を締め切っての地獄のスリーメン”は非科学的であるとのことで，現在は行なっておりません・・・。時代ですね。

ここ５年の活動成績ですが，東海地区高専大会は３位(H26)→2 位(H27)→2 位(H28)→１位(H29)→4 位(H30)となっています。最近は東海地区５高専の実力が拮抗しつつあるのですが，それでも最後には鈴鹿が優勝を持っていくことが多いです。現在鈴鹿のコーチは川本先生 Jr.がつかれており，血は争えないなぁと感じております。大学リーグでは H27,H28,H29 と２部優勝を果たしましたが，入れ替え戦では勝ち切れず１部の壁にぶち当たっている状況です。

平成 30 年度東海地区高専大会@沼津の集合写真

このようになかなか結果がついてこない状況ではありますが，学生ともども真摯にバスケットに向き合っております。OB, OG のみなさまにおかれましては，もしお近くに来られることがありましたら是非とも第二体育館までお越しいただければと思います。引き続き，よろしくお願いいたします。

企業家卒業生インタビュー

塩谷和正／菊池潤也（14 期生、写真部）

前回までの企業家卒業生インタビューは会社を経営している方に登場してもらっていましたが、今回は、会社勤務を経て自宅にて機械設計事務所を個人経営するに至った 14 期生のお二人に登場いただきます。このお二人は在校中のクラブ活動が同じで写真部で活動しておられました。

＜ザルツ機械設計　塩谷和正＞

Q１．起業をするまでの経歴、きっかけをお教えください。

1981 年卒業後、家電メーカーに就職、精密電子部品設計を担当していました。地元岐阜へのＵターンの為、非鉄金属メーカーに転職し、弱電メーカーへの電子部品設計に従事しました。時代情勢の背景から、海外移転。工場集約を期に地元の専用機器メーカー等で専用機械の設計をすることになり、さらに、昨年（2017 年）独立、個人起業として開業し、現在に至ります。

設計室での塩谷さん

Q２．開業してから感じたこと、思ったことをお話しください。

次の３つに集約されます。

・日々の時間を調整して使える。

・業務の継続的安定確保が課題。（業務計画の立案、実行、修正、再計画）

・顧客との信頼関係がより重要。（顧客との意思、疎通が重要）

Q３．個人経営の事務所がつぶれる、資金ショートのような危機に陥ったことは？

資金ショートの懸念は常で、実際に何度もあり、今後も覚悟しています。
顧客側が当方の資金ショートや事情を察して心配してくれることもあります。
納期の調整、出張経費の配慮、見直し、入金予定を早めるなど、伴に苦労の上で達成した実績を十分配慮してくれました。日本人的な情の世界であり、日々感謝することもあります。

Q４．今、何が欲しいですか？資金、人材、技術など

設計に対する現場の声を聴く機会を常に設けたい。

理想論、一般論ではない組立側、顧客側双方の現場都合を反映した設計をしなければならないと考えています。それとやはり資金です。PC、CAD、その他管理ソフト等で対応できることは機械、システムに任せ、人為的ミスを防ぎ、本来のアイデア、設計に専念したいです。

Q5. 高専時代の学生生活で役に立ったことは？

次の２つを挙げます。

（１）工場実習

旋盤、フライス盤など実際の加工や作業など、実際に触り、手にした経験、実績は大きい。特に、安全面での注意は今でも、反射的に対応できていると感じます。

（２）講義での教授、講師方の武勇伝

現業務における顧客、作業委託先などの関係者との会話で引用できることが多々あり、技術者同士の会話が盛り上がります。

Q6．将来、この事務所をどうしていきたいですか？

法人化することなく、個人事業のまま。

Q7. 後輩、現役学生などに一言お願いします。

・顧客との会話で、大学卒に比べ、高専生は真面目で頭がいいと好評です。正直、お世辞なのかわかりませんが、何故か面白くないです。

・他にはない５年間という優位な時間を、技術者としての時間にとらわれず、肩を張らず、人としての一時的な経験期間としてとらえ、知見を広げることを考えてみてはいかがでしょうか？

Q8. 経営を退いたら何をやりたいですか？

機会があれば自身の武勇伝を語れたら、と思います。

＜JBS　菊池潤也＞

Q１. 起業をするまでの経歴、きっかけをお教えください。

私は機械設計で会社員生活をしていましたが、50 歳になったら会社員の生活を変えたいと思っていました。また父親がやはり個人事業をやっていたこともあり、ニーズもあったので個人でやることにしました。でもまさか現在までやれるとは思っていませんでした。

Q2. 開業してから感じたこと、思ったことをお話しください。

会社員には不満はあっても不安はない、個人事業主には不満はないが不安がある。何といっても確定申告が手間。

Q3. 個人経営の資金的な苦労は？

設計の仕事なので、良くも悪くもサービス業。仕入れがないから、資金は最初のハードをそろえる初期投資のみ。３画面だと図面のチェックもディスプレイ上で OK（全く印刷しない）。納品もメール。設計に使うデータもインターネット経由。

（昔だと大型プリンターを揃えてすべて印刷する必要があったし、CAD データもメーカーからフロッピー何十枚ともらうことになり個人だと難しい状況でもあった）

こんな時代だから独立できたかもしれない。

設計室での菊池さん

Q4. 今、何が欲しいですか？資金、人材、技術など

特にありませんね。今の自由な生活は楽でいいです。ただ、自分が病気になった時などのことは頭をよぎります。

Q5. 高専時代の学生生活で役に立ったことは？

機械設計をやっていると、製図より図学ってそれなりに大事だったかなと。

Q6. 将来、この事務所をどうしていきたいですか？

厚生年金がないので、会社を退職された方より年金が少ない。だから体力と仕事があればこのまま続けたい、というより続けないと。

Q7. 後輩、現役学生などに一言お願いします。

派遣で大手の企業をいくつか見てきた経験から言えば広い視野をもつべし。高専を出て就職したところが人生の全てではない。

（もちろん良い会社もたくさんあるがそうでないところも）

（取材・編集を終えて）

塩谷さんとは高専の研究室も同じ、また就職先も同じでした。その会社がつぶれて１回しか転職を経験していない私からすると、早期にＵターン退職された塩谷さんはかなり苦労されていらっしゃるかと。

菊池さんから伺ったことは、昔から２足のわらじをはいてサラリーマンと自営をやっている私には、確定申告の面倒さを理解できる（私の場合は単にさぼっているだけ）と同時に、改めて情報技術の時代の流れを感じた次第です。

お二人の益々のご健勝と設計事務所のご繁栄を祈念いたします！

（記：中尾）

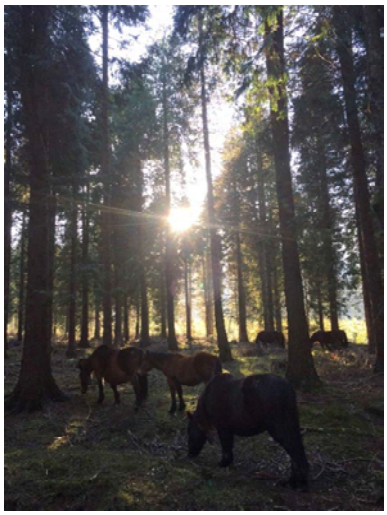
出張先からの便り

どうも。編集委員の伊藤です。仕事で２ヶ月スペインの会社に滞在となったので、仕事と生活について紹介したいと思います。

私の属する航空機業界は、お客さんもサプライヤさんも海外が多いです。Web 会議で資料をシェアしながら海外と普通に話せる時代ですが、時差は如何ともしがたく、そもそも日本と北米と欧州を同時に繋ぐと大体日本が深夜になるのです。欧米は夜は働きません(T_T)。また三現主義なんて言いますが、問題が起きてるときはその現場に足を運ぶのが一番。ということで単身渦中のスペインへと相成るわけでございます。

通常の出張だと週末は移動で無くなりますが、長期滞在となると話は別。現地の人と一緒に過ごし、遊び、人間関係を築く良い機会です。男同士なら夜の遊びが絶大な効果を発揮しますが、今回はお昼の健全なオリエンテーリングに誘われ、それはそれで興味深いかと思い参加してきました。オリエンテーリングなんて子供が研修旅行とかでやるやつやん？と思っていたら大人のやつはむしろ山岳トレイルランといった感じでめちゃくちゃハード。みんな服装からして本気だし。そんなの聞いてない私はジーパン&スニーカーだし。そんなこんなでコンパスと地図を頼りに道なき山林を走り回った結果、やっぱり私がビリでしたけど。初参加で完走できただけでも頑張ったと思いたい。

同級生見てても思いますが、高専卒業すると海外の会社と付き合うことも多いと思います。なんでも海外が良いとは思いませんが、どこか行く機会があったなら時間を見つけて現地の文化に溶け込んでみるのも一興。人との繋がりも増え、仕事にも役立つこと間違いなしです。私も経験値アップして早く一人前になりたいと思う今日この頃です。



十五夜会（7M）について

新東工業㈱　海外営業部　　西村省三（十五夜会幹事）

岐阜高専　機械工学科を卒業して４０年になります。
既に定年を過ぎて完全引退した人や、継続して会社に残った人、独立して事業展開する人など、自分の健康と相談しながら６５歳を謳歌しているメンバーの集まりです。３ ヶ月～半年に１回くらいのペースで岐阜／名古屋の盛り場に集まりお互いの健康を祝福しながら乾杯をしています。既に５１回（２０１８年７月２１日開催　１０名参加）の開催になります。その間には友を亡くす悲しみや、親の介護に苦しんだ時期など、同じ世代であるが故に抱える問題に繋がるものがあり、自分だけだと思っていた悩みも共有出来たことが、この会の続いている一つの理由かも知れません。最近は、それぞれが爺や婆になり、自慢の孫話でも花が咲く様になりました。
一方、現在も現役で海外を駆け回る実業家もおられ、まだまだ自分も頑張らねばと励ましを受ける場でもあります。今後もシルバーエイジの十五夜会として継続して参ります。

２００１年９月の十五夜の日の第１回開催から１７年間、年に約３回の開催を継続している7Mのミニ同窓会を幹事の西村さんに紹介していただきました。これだけ長く継続しているのはひとえに歴代幹事の皆さんのお陰です。（飯沼）

英語プレゼンテーション・スピーチの訓練をしませんか

トーストマスターズクラブの紹介

昨今、プレゼンテーション・スピーチが求められる機会が増えています。しかしみなさんの中には、このようなパブリックスピーキングを苦手に思う人が多いのではないでしょうか。今後ますますグローバル化する世の中で、コミュニケーションのスキル、それを活かしたリーダーシップの能力はますます重要になります。トーストマスターズクラブは、パブリックスピーキングがうまくなりたい人のために、作られたクラブです。私は、このトーストマスターズクラブの会員になって 10 年以上たちます。

トーストマスターズクラブの活動は、1924 年にアメリカで始まりました。いまこのクラブは全世界 141 カ国以上に広がり、35 万人以上のトーストマスターズ会員が、16,400 のクラブに所属しています。この活動は、日本では 1954 年に東京で始まり、2018 年現在、全国で 186 のクラブが存在しています。

プレゼンテーション・スピーチのコツは・アイコンタクトをする、・大きな声でゆっくりと話す、・ジェスチャーを取り入れる、・間（ま）を効果的に使うなどと言われていますが、コツはわかっていてもなかなかその通りにいかないのがスピーチです。つまり、コツを知っていてもインプットだけでは、実戦で役に立たないのです。これは試験で良い点をとれても、それが実社会で役に立たないのと同じです。あくまでアウトプットすることによって身につくものなのです。トーストマスターズクラブは、スピーチ、プレゼンテーションを実際に人前ですることによって、聞き手を納得させ、感動させる技を身につけることを目的にしたクラブです。

人前で話しをすることは、楽しいことです。同時に人の話を聞くことも楽しいことです。これが、トーストマスターズクラブが全世界に広まっている理由です。英語でスピーチをするアウトプット、また人の英語のスピーチを聞いてそれに対して自分の意見をまとめることで、英語能力は驚くほど上達します。

残念ながら岐阜にはまだ公認されたトーストマスターズクラブがありません。しかしながら、今この機巣メールマガジンの編集委員である太田さんの事務所（岐阜市加納）で、月に 1 回英語のプレゼンテーション・スピーチをする活動をしています。自分の仕事で、プレゼンテーション・スピーチが必要な人。英語のコミュニケーションが上達したい人、現役は引退したけれど、自分が獲得した英語のスキルをさび付かせたくない人、トーストマスターズクラブの英語のプレゼンテーション・スピーチの会に参加してみませんか。このクラブには現在、いろんな分野の男女約 10 人のメンバーがおり、その中には英語ネイティブスピーカーのアメリカ人の青年もいます。

下にこのクラブの開催日、時間および場所をお知らせします。
みなさんの参加をお待ちしています。

日時：毎月第 3 水曜日 19:00～21:00
場所：コアコーポレーション事務所
（岐阜県岐阜市加納大黒町 6-15）
連絡先：中野（nakano-hiro@hi-ho.ne.jp,
090-1781-0754）

機械工学科 4 期卒業生　中野廣幸

編集後記

編集委員

６M　太田哲也

今年は嬉しいことがありました。
４年ほどプロのコーチにゴルフのレッスンを受けていました。先日ベストスコアを更新しました。40 歳のころに出したスコアです。この歳になって飛距離も伸びスコアもアップするとは思ってもいませんでした。

７M　飯沼義徳

今月から編集委員のメンバーに入れていただきました。どうぞよろしくお願いします。
４５年間務めた会社を１２月に退職します。あっという間でした。まさに「光陰矢の如し」です。これまでの人生で、学生時代の友人はまさに“宝“です。今後は、今まで以上に家族、友人、仲間を大切にして少しゆっくり流れる時の中で、しっかり充電。そして・・・。

８M　犬飼宏好

今月は以前勤めていた会社のＯＢ会（ウォーキングサークル）の開催および事前調査で、桑名市（六華苑～桑名城址）、中津川市（苗木城址）、名古屋市（藤前干潟～ポートメッセ）、四日市市（市内～旧港）などを歩き回りました。それぞれ５～１０ｋｍ程度のコースですが、毎回背中や足腰の痛みがあり、体力不足を感じるばかりです。これらが「ＯＢの近況」みたいな原稿のタネにできれば・・・

１５M　中尾賢治

今年は台風の多い年でした。当方も被害を受けましたが皆様はご無事でしたか？来年も同窓生からの近況報告をお待ちしております。

２４M　山田　実

高専祭では多くの OB に会うことができました．専門展・ちょんぼなど皆さんも参加した行事をまだ行なっていますので，来年も来てください。

３３M　伊藤友裕

来年で 40 歳を迎えます。卒業してからもう 20 年経つんですね。
次の 20 年なにしようか、日々計画を練っている今日この頃です。

発行日／２０１８年１１月２８日
責任者／中野廣幸　　**発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巣会」編集室**
〒501-0495　岐阜県本巣市上真桑２２３６番地２
TEL　058-320-1343　　FAX　058-320-1349
http://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/main/ob/ob.html